

研修会「古利根沼周辺を紫外線カメラで」に参加して

相馬なおみ（白井市）

開催日：2011年4月24日（日） 天気：晴
場 所：古利根沼周辺 千葉生態研究所
講 師：浅間 茂氏 担当指導員：盛一昭代
参加者：指導員17名 他2名

案内文の『古利根沼』・『紫外線カメラ』・『電子顕微鏡』・『浅間先生の千葉生態系研究所』の文字に惹かれ、2006年会員になって以来2度目の参加となりました。今まで自然を観察することしか考えていなかった私にとっての1番の収穫は、その先にいくところがあるんだな…ということがわかったことでした。

フィールドワークや観察会を通して、見たり調べたりする新しい発見は楽しい世界です。でも、今回の研修会では、利根川を挟んで茨城県の飛び地を生んだ古利根沼の歴史的背景や、浅間先生がかかわってきた古利根沼の厳しい保全活動と現在も続いている市民活動の良さについて、又、先生ご自身で作られたという紫外線カメラや電子顕微鏡という新しい道具で身近な生きものを学ぶというテーマをより深められているということなど、生きていく方向を見せていただいた気がします。（勿論、アズチグモが花の中心にいる時と周辺部にいる時とでは、自分で体の紫外線の反射量を変えているというお話しや、採ってきたスギナの袴を電子顕微鏡で0~1000倍にした時の映像の変化の大きさには、思わず「ウワー!!」と歓声を上げてしまいました…）

10数年前、柏市自然環境調査の調査会で初めて浅間先生にお会いした時、カエルが鳴くような声はオオヨシキリだと教えられ、単純に嬉しかったのを憶えています。でも、それから月日が経つうちに、生きものの「なぜ」以外に日々つきつけられる多くの現実があり、私自身の自然とのかかわり方も変わってきました。今回の研修会は、先生より10歳ほど若輩の私にとって自分を顧みる機会となりました。参加させていただき、どうもありがとうございました。



古利根沼に程近い千葉生態系研究所
機材に囲まれて嬉しそうな浅間先生

